

海と街をつなぐ家 ～漁師の暮らしが息づく住まい～



計画地

富山県射水市 新湊地区
北側には放生津内川が流れています。
新湊は、海とともに発展してきた漁師町であり、漁業と地域の繋がりが暮らしを支えてきました。
しかし、近年は住まいと生業、人と地域との距離が少しずつ離れつつあります。そこで、海と街をつなぐ一本の通り土間を住宅の中心に配置し、漁師の生業と家族の暮らし、地域の交流を緩やかにつなぎ新湊らしさを取り戻す住まいを提案します。



内観パース



通り土間は道路から海まで誰でも自由に通り抜けられるようGLとほぼ同じ高さとししました。一方、小上がりはベンチのように腰掛けられるように400ミリ床をあげました。
川側のテラスもわずかに床を上げることで、雨水対策を行いながら、漁具の手入れや魚の荷下ろしがしやすい作業空間としています。
また、新湊の街並みには切妻屋根や深い軒を持つ木造住宅が多く残っているため、それに合わせて、切妻屋根を取り入れ、地域の景観や土着性を継承しました。
南側には開口部を大きく設け、地域の人などが入ってきやすいようにしました。

コンセプト

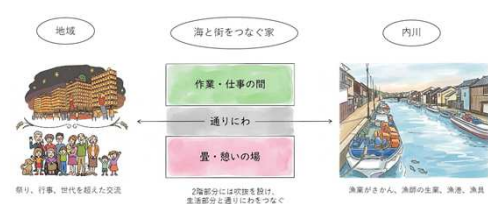
漁業と地域交流によって育まれてきた新湊の暮らしを住宅を通して未来へつなぐ。街から海まで続く通り土間を軸に、人・漁・地域が自然と交わる住まいを提案する。

家族構成

- ・父 漁師
- ・母 畑を営む
- ・娘 中学二年生
- ・息子 小学四年生



ダイアグラム



北側の内川側からは漁師である父が仕事場へ、道路側からは地域の人が直売所やマルシェへ自然に立ち寄れるよう、動線を分けながらも通り土間を通して交わる構成としています。地域との交流を盛んにするため、母が育てた野菜や父が釣った魚を販売する直売スペース、飲食や休憩、イベント時の滞在スペースとして利用できる小上がりを設けました。
2階は家族が落ち着いて暮らす生活空間でありながらも、吹き抜けを設けることで一階の通り土間との気配を感じられるようにし、子供と両親の距離が遠くなりすぎないようにしました。
また、内川側のテラスに外部階段を設け、2階のテラスとつながるようにしました。そこでは、魚を干したり、内川を眺められる空間にしました。

